

no English translation

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭55-80054

⑫ Int. Cl.<sup>8</sup>  
G 01 N 33/54  
21/17

識別記号

庁内整理番号  
6656-2G  
7458-2G

⑬ 公開 昭和55年(1980)6月16日

発明の数 6  
審査請求 未請求

(全 14 頁)

⑭ 免疫反応の定性的および定量的決定法および装置

⑮ 特 願 昭53-150590  
 ⑯ 出 願 昭53(1978)12月7日  
 ⑰ 発 明 者 ジエツシ・エル・アツカ  
 アメリカ合衆国ニュー・ジャージー州ロツクウエー・オスエゴ・アベニュー8  
 ⑱ 発 明 者 ビータ・エム・メゼロル

⑲ 出 願 人 アメリカ合衆国ニュー・ジャージー州モントビル・ストーニブルツク・ロード12  
 アクローメディツク・エンジニアリング・インク  
 アメリカ合衆国ニュー・ジャージー州デンビル・ブロード・ストリート30  
 ⑳ 代 理 人 弁理士 山崎行造 外1名

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

免疫反応の定性的および定量的決定法および装置

## 2. 特許請求の範囲

(1) 生物学的検体試験試料(検体)の免疫成分の定性的決定法であつて、

(a) 前記検体を真鍮的に不透明なコロイド粒子を含む検体用反応物質(試薬)とともに反応領域に導入することと、

(b) 前記反応領域において前記検体と前記試薬とを一緒に混合して反応を進行させる(培養する)ことと、

(c) 前記反応領域の内容物を放射エネルギーで透照し、透過した光ビームを映像検出器の面上に納像させて前記反応領域内の凝集した粒子に対応する暗黒領域を形成することと、

(d) 前記映像検出器の面上の全暗黒領域を測定することと、

(e) 前記ステップ(a)-(d)を基準試料に対して繰り返すことと、

(f) 前記検体の全暗黒映像領域と前記基準試料の全暗黒映像領域とを比較することを含む方法。

(2) 特許請求の範囲第1項の方法であつて、前記試薬は木炭粒子である方法。

(3) 特許請求の範囲第1項の方法であつて、前記試薬はラテックス球である方法。

(4) 特許請求の範囲第1項の方法であつて、前記培養は約25℃-50℃の温度において約5分-15分間行なう方法。

(5) 特許請求の範囲第2項の方法であつて、前記培養は約25℃-50℃の温度において約5分-15分間行なう方法。

(6) 特許請求の範囲第3項の方法であつて、前記培養は約25℃-50℃の温度において約5分-15分間行なう方法。

(7) 特許請求の範囲第1項の方法であつて、前記凝集した粒子に対応する領域は電子装置によつ